

ロボットアーム剣道大会

第3回 ROBO-剣競技規則 (2015. 8. 31 改定)

ROBO-ONE 委員会は、ROBO-ONE を通してロボット教育を進めるとともに、知能を持つ関節型ロボットの普及を目指し、ロボットアームによる剣道大会を開催します。

ROBO-剣競技規則

1. 部門分けについて

ROBO-剣は遠隔操縦部門と入門部門を設けるが、第3回大会では両部門混合での試合とする。

・遠隔操縦部門

カメラ映像を見ながら、自律または操縦によりロボットアームをコントロールする剣道大会。

・入門部門

ロボットを目視可能で人による操縦で戦う剣道大会。

2. ロボットの仕様

・最大 5 軸のロボットアームとし、詳細は図 1 に示す。またカメラ位置はロボットアームの動きを妨げない場所に自由に搭載できる。

3. 競技(遠隔操縦/入門部門共通)

・決め技は籠手、面、胴、突きの4つとする。

・技を出す前に技名を発声する。

・小手、面、胴については、それぞれの部位を竹刀先端部(先端から 10cm 程度)で有効に叩くことで1本とする。

・突きについては、面を竹刀先端部で有効に突くことで1本とする。

・3本勝負とし、2本先勝で勝利とする。

・対戦ロボット間の距離は 50cm とする。

・試合は持ち時間 3分とし、礼に始まり、礼に終わる。

・はじめの合図で試合を開始する。

・「待て」の合図で試合を停止する。この時脱力モードをお願いする場合がある。

・止めの合図で試合を終了する。

・竹刀を落とした場合、ロボットが壊れた場合などは、反則 1回とする。反則 2回で1本とする。

・試合中にタイムを 2分間のとることができる。タイムを一回とると反則 1回とする。

4. 操縦方法

- ・入門部門においては、目視により、ロボットを見ながら操縦することができる。
- ・遠隔操縦部門においては、ロボットに搭載したカメラ画像のみを見ることができる。ただし今大会では有線で接続するものとする。

5. 審判

剣道経験者とする。

(解説) 決め技については剣道における判定と同様に行われます。たとえば小手の有効な範囲は正面に構えた場合の上部半分となります。胴、面、突きにおいても、同様です。

図1 ロボットの仕様

